

歯肉病変

歯肉病変の分類(日本歯周病学会)

1. プラーク性歯肉炎
2. 非プラーク性歯肉病変
3. 歯肉増殖

プラーク性歯肉炎の二次分類

- ・ プラーク単独性歯肉炎
- ・ 全身因子関連歯肉炎
 - 萌出期関連歯肉炎
 - 月経周期関連歯肉炎
 - 妊娠関連歯肉炎
 - 糖尿病関連歯肉炎
 - 白血病関連歯肉炎
 - その他の全身状態が関連する歯肉炎
- ・ 栄養障害関連歯肉炎
 - アスコルビン酸欠乏性歯肉炎
 - その他の栄養不良が関連する歯肉炎

非プラーク性歯肉病変の二次分類

- ・ プラーク細菌以外の感染による歯肉病変
 - 特殊な細菌感染によるもの
 - ウイルス感染によるもの
 - 真菌感染によるもの
- ・ 粘膜皮膚病変
 - 扁平苔癬
 - 類天疱瘡
 - 尋常性天疱瘡
 - エリテマトーデス
 - その他
- ・ アレルギー反応
- ・ 外傷性病変

慢性剥離性歯肉炎

- ・ 女性に多い(閉経後)。
- ・ 唇頬側の歯肉に好発する。
- ・ 剥離性びらんと浮腫性紅斑が現れる。
- ・ 自発痛、接触痛、刺激痛、誘発痛等がある。
- ・ 副腎皮質ホルモン製剤(ステロイド軟膏)の局所塗布を行う。
- ・ 完全な治癒は難しい。

歯肉増殖の二次分類

- ・ 薬物性歯肉増殖症
- ・ 遺伝性歯肉線維腫症

薬物性歯肉増殖症

- ・ 前歯部に現れやすい(限局型と広汎型)。
- ・ 薬物の服用量で病態が変化する。
- ・ どの薬剤も服用後 3 ヶ月程度で発症することが多い。
- ・ 内科主治医に対診し、可能であれば薬物を変更してもらおう。
- ・ 中高年で歯周炎となっているときの外科処置はフラップ手術を選択する。

壊死性潰瘍性歯肉炎

- ・ 多い細菌
 - Prevotella intermedia*
 - Fusobacterium Nucleatum*
(紡錘菌)
 - スピロヘータ
- ・ ストレス、免疫力低下、栄養不良、(喫煙)と関連している。
- ・ 接触痛や自発痛がある。
- ・ 重度では強い口臭、全身倦怠感、発熱、リンパ節症、歯間部歯肉の穿孔性潰瘍がみられる。